

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和6年3月

学校法人もっこく学園

認定こども園 さつきが丘幼稚園

1. 本園の教育目標

『子ども・保護者・教師ともに学びあえる楽しい幼稚園』

個々の特性をいかし、心身ともに健やかで調和のとれた感性豊かな子どもの育成。

- ・丈夫なからだ、元気でよく遊ぶ子。 ・自分で考え、あきらめずにやろうとする子。
- ・よく聞き、よく見て、よく感じる子。 ・思いやりと、感謝の気持ちをもてる子。
- ・みんなと力を合わせてする喜びがわかる子。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

個々の幼児に必要な援助を探り、教育内容および指導の工夫や質の向上に努める。

見通しをもったクラス運営をする中で、発達に応じた育ちの支援をしていく。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	達成及び取り組み状況
○教育・保育の計画性 教育課程・教育方針 教育目標・指導計画 環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案の記入のしかたが適切かどうか。・学年担任は他のクラスの様子を知りたい。 ・遊びを十分確保する時間を中心に、他の活動など全体的見直しが必要。 ・幼児の姿や保護者の意識等の変化に基づく、指導計画の策定が必要。 ・ねらいをもった環境構成が不十分と感じるところがあった。 ・子どもの興味や関心になら合った遊びの提案が出来るように努めた。 ・即時の対応や個人の判断になってしまうことがあったが、もっと適した環境構成を整えておく必要があった。
○教育・保育のあり方 幼児理解・指導 安全・健康	<ul style="list-style-type: none"> ・打ち合わせ時に指導法を詳しく知りたい。 ・園内にて事例研修を行い、幼児理解や指導方法を探りたい。 ・幼児の経験の乏しさが様々な場面で見られるため、あり方の再考が必要。 ・園内や園外保育時での子どもの安全について、よくシュミレーションしていきたい。(ヒヤリハットの記録や検証をしていった。) ・危険や周囲に影響を与えるような行為に対して、適切な言葉使いや対応に悩んだり反省があった。 ・生活習慣が身につくように、繰り返し行い見逃さずに見る事の大切さを続ける。
○教師としてのあり方 組織・役割 資質・適正 連携	<ul style="list-style-type: none"> ・日常からメモや記録をとる習慣をつけるようにした。・必要であれば保護者対応を上司を交えて行いたい。 ・幼児理解と同時に、保護者理解を教師間でも連携していった。 ・お互いを尊重し合い、対話の機会が足りないところがあった。 ・責任を持って取り組んだが、教師としてのあり方の適正など改めて考えた。
○保護者への対応 情報発信・対応 苦情相談	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時に直接対面出来ない保護者とのコミュニケーションが必要。 ・子どもの様子や変化など、保護者との情報交換がもっと出来るとよい。 ・面談等上司に入っただき、対応について今後の学びになった。

	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの要望や苦情等は、報告し共通理解のもとで対応するように心がけた。 ・保護者が安心して預けられるように、子どもの良いところを出来るだけ伝えるように心がけた。
○地域との関わり 自然・社会 子育て支援・開放 幼小連携	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所の子ども達と一緒に遊ぶ機会があるとよい。(貝塚公園で遊ぶ等) ・小学校との交流や、卒園した子ども達の話の聞けるとよい。 ・小学校との交流の機会がこれまでより増えてよかった。子ども達の刺激にもなった。 ・未就園児子育て支援に於いて、参加者と交流を持ったり情報提供をした。
○研修・研究 意欲・態度 専門性	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に研修に参加したい。 ・要支援の子への対応や、応急処置等の実践研修の機会があってもよかった。 ・園内研修は形式張っていて、根本的なところまでたどり着けない感じを受けた。 ・研修で学んだ事が自分自身、興味や関心が深まった。今後も活かしながら保育をしたい。

4. 総合的な評価結果

教職員は本園の経営理念や教育方針をおおむね理解し実践している。新型コロナウイルスも5類となり、社会生活も規制が緩和されて、園生活でも行事や各種活動もコロナ前に戻るといよりも、幼児の実情に合った活動を計画していくようにしたことは評価できるところである。しかし、めまぐるしく変化する社会情勢や教育保育を取り巻く話題などの情報がある中で、それらを取り入れ精査して本園にふさわしい教育のあり方を考えて行く方向に向かわなければならぬことに気づかされた。

環境設定の重要性は承知しているものの適切であったのか、また新たな発想を取り入れることの柔軟性を持ち合わせていたのかということでは課題もあった。教師の教育力についても自信を持って教育保育することが望まれるが要支援児や個別指導の必要な幼児の指導に疲弊する様子も見られ、教職員の連携やシュミレーションの重要性を再認識した。保護者対応についても、もっと対面での会話などで個別の情報提供をする機会があると、より安心できるのではないと思われる。工夫をしていく必要がある。安全管理や発達支援機関との連携については、慎重に取り扱うようにしたい。

地域とのかかわりについては、小学校との連携がこれまでよりも機会が増えて良かった。今後は保育所等との連携も機会があれば試みたい。

研修、研究については、教育研究会の公開園となり研究発表を行ったことは貴重な機会であった。積極的に研修を受ける態度が見られた。向上心を持って専門分野の知識の探求がなされている。今後も教師間でお互いに刺激し合っていけるようにしたい。また、大学の研究に協力する機会があり、まもなく成果が発表される。外部関係機関と積極的にかかわったことは園にとっても大きな成果である。

5. 今後取り組む課題

	課 題	具体的な取り組み方法
1	教育課程、教育指導計画の見直し 教育指導5カ年計画プロジェクト	社会情勢や幼児を取り巻く環境の変化に則した計画の策定をする。 幼児の態度や行動に着目し、重点をよく捉えて長期計画を立てる。
2	幼児自身が自分の思いを言葉や態度で表現する。	一人ひとりが安心して心を開き、言葉や態度で表現し高めていける環境作りや援助。教師が余裕を持って、子どもと丁寧にかかわる。
3	自分で考えて行動する子どもを育てる。子どもが主体的に行動する。 異年齢の交流を活発に行う。	自ら考えて行動する力を育てる援助。子どもが達成感を味わい、自信を持って生活していけるようにする。保護者へのアプローチ。 ひとりひとりが存分に遊び込める時間の保障をする。

6. 学校関係者評価委員会の評価

保護者のアンケートについては、ご協力いただき約80%近くの回答をいただきました。本園の教育方針や日々の教育、保育活動について理解いただいていることを確認しました。

- ・5月に新型コロナウイルス感染症が5類になり、園の行事等も保護者の参加が出来るようになってきたのは良かった。運動会や生活発表会は、保護者席は園児がくじ引きをして決めたため、席の確保の負担がなくて助かる。今後もそうしてほしい。また、作品展等も時間指定であったため、担任と話す機会を確保出来た。
- ・ボディペインティングが猛暑のため出来なかったのは、非常に残念であった。保護者は園でしかできない活動のため是非経験させたい。
- ・以前は図書室の絵本を借りて帰る（親子図書）ことができたが、図書室の利用が少ないように感じた。有効に利用できると良い。
- ・園バスがあと1年で廃止となるが、自家用車の送迎も多くなり駐車場の確保は出来ないのか。担任と話したい時など園の駐車場が確保されていると助かる。

〈園からのコメント〉

- ボディペインティングは猛暑が続き予定が何度も変更し機会がなかった。計画を柔軟にしてタイミングの取れるときに実施できるようにしたい。
- 保護者にとって我が子の様子を知りたいが、降園時に対面できるとなると徒歩や自転車通園者のみになり、なかなか担任と対面で話す機会がもてない方が多い。2号児は特に引き継ぎの担当者を通して伝達することになる。情報はメールやお便りなどで、なるべく分かり易いように発信したい。また、保育参観の回数がまだ少なかつたため、次年度は増やして担任が対面で保護者の皆様に伝達していくことが出来るようにしたい。

評価の判定		A=そう思う	B=やや思う	C=あまり思わない	D=思わない	
評価項目		評価				
		A	B	C	D	
園 経 営	1.教育方針や教育目標、教育活動に関する情報提供がなされていたか。(案内や各種連絡文書、園だより、園ブログ等)	69	4			
	2.行事や活動において、保護者にその行事や活動のねらいなどを理解されるように伝えたか。	64	8	1		
	3.保護者、地域の方の意見を参考にして、子どもを主体とした教育の継続に努めていたか。	64	9			
	4.保護者・地域への園施設の開放を行っていたか。 (保護者打ち合わせ・園庭開放・子育てルーム等)	70	3			
	5.安全における危機管理をしていたか。 (不審者や交通安全・保健情報・避難訓練・安全管理)	66	7			
保育の ありかた ・指導	1.保育を参観する機会や教師と話をする場を適切に設けていたか。(懇談会・個人面談・誕生会・おしゃべりタイム・日常連絡等)	67	6			
	2.教師は、家庭と連携し、集団生活のルールや基本的な生活習慣の指導を適切に行っていたか。	61	10	2		
	3.教師は、思いやりや善悪の判断など、道徳性を育む指導を適切に行なっていたか。	58	14	1		
	4.教師は、ひとりひとりの園児を理解し、個々の特性を伸ばす指導をしていたか。	57	13	3		
	5.教師は、園児とよく遊び、笑顔でどの子どもも公平に接していたか。	64	8	1		
	6.教師は、子どもや保護者に対して、適切な言葉づかいや対応をしていたか。 また子どものことについて相談に応じてくれたか	64	7	2		
特 色 あ る	元 気 な 子	1.積極的に戸外遊びや運動遊びに取り組んでいたか。 (体育指導・集団遊び・マラソン・すもう大会など)	70	3		
		2.挨拶や日常の生活習慣をしっかり身につけ、安定した園生活が送れるような環境づくりをしていたか。	66	7		
		3.保育参観や行事等で、保護者に幼児の成長がわかるように伝えたり、取り組みを伝えていたか。	62	11		
		4.健康で安全な園生活が送れるように、安全指導、保健指導に取り組んでいたか。	64	8	1	
教 育	感 じ る 子	1.自然や動植物との触れ合いをしながら、好奇心をいだいたり、かかわれる環境をつくっていたか。	66	7		
		2.感じたことや、思ったことを素直に言葉や身体で表現できるよう取り組んでいたか。	58	13	2	
		3.子どもの想像力や発想、個々の良さを認め、より発揮できるような機会や環境づくりをしていたか。	61	10	2	
活 動	楽 し い な か ま	1.学級・学年の友達の中で、自分を肯定しながら、友達と安心してかかわり生活できるような環境づくりをしたか。	63	10		
		2.異年齢の友達と親しみをもって、過ごしたりかかわる取り組みをしていたか。	61	12		
		3.互いを尊重し、思いやりや感謝の気持ちの育ちを学べる機会を作ってきたか。	59	14		
子 ど も の す が た よ う す	家 庭 で の よ う す	1.食事・着替え・排泄など、基本的習慣が身についたか。	59	13	1	
		2.喜んで登園し、挨拶やマナー・ルールを理解し、行ったり守ろうとしたか。	57	15	1	
		3.我慢することや思いやりの心、物を大切にすることが育ったか。	50	20	3	
		4.自分のことは自分であることができるようになり、考えや思いを自分の言葉で伝えることができたか。	56	16	1	

- ・体操服に長袖、長ズボンを取り入れてほしい。(寒い日に長袖の肌着を着るしかなく好ましくないと思う)
- ・給食でどんなものを食べているか?親が見て試食する機会がほしかった。(これは美味しい、苦手等と子どもと会話するため)
- ・昨今の猛暑に対応して 夏の制服のリボンをやめ、ブラウスの第1ボタンを開けさせてほしい。
- ・夏季保育をなくしてほしい。 ・今後もバスの運行をしてほしい。
- ・登園に不安を抱える息子に対し、個人面談等で親身に相談ができて支えられた。少しずつ笑顔で通えるようになり感謝している。
- ・昨年からの通園が始まりたくさんのお話ができるようになった。園での出来事や友達のこと等話してくれ楽しい様子が伺える。
- ・毎日帰ってくるとその日の話をします。いつも温かいご指導ありがとうございます。